

# 2年1章 式の計算

## 1 単元の目標

- (1) 文字を用いた式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数  
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。
- (3) 文字を用いた式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数  
学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようと  
する態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①単項式と多項式、項、次数、同類 項の意味を理解している。 ②簡単な整式の加法と減法及び単 項式の乗法と除法の計算をする ことができる。 ③具体的な事象の中の数量の關係 を文字を用いた式で表したり、 式の意味を読み取ったりするこ とができる。 ④文字を用いた式で数量及び数量 の關係を捉え説明できることを 理解している。 ⑤目的に応じて、簡単な式を變形 することができる。	①具体的な数の計算や既に学習し た計算の方法と関連付けて、整 式の加法と減法及び単項式の乗 法と除法の計算の方法を考察し 表現することができる。 ②文字を用いた式を具体的な場面 で活用することができる。	①文字を用いた式のよさについて 考えようとしている。 ②文字を用いた式について学んだ ことを生活や学習に生かそうと している。 ③文字を用いた式を活用した問題 解決の過程を振り返って検討し ようとしている。

## 3 指導と評価の計画 (15 時間)

時間	節/小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1 節 文字式の計算		
1	1 単項式と多項式 (教科書 p.10~13)	1	・単項式と多項式、多項式の項と次数の意味を理解している。 (知①)
2	2 同類項 (教科書 p.14)	1	・同類項の意味、分配法則を基にした同類項のまとめ方を理解 している。(知①) ・分配法則を基に、同類項をまとめることができる。(知②)

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年で学習した計算の方法と関連付けて、同類項のまとめ方を考察し表現することができる。（思①）</li> </ul>
3	3 多項式の加法と減法 （教科書 p.15～16）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な多項式の加法と減法の計算をすることができる。（知②）</li> <li>・1年で学習した計算の方法と関連付けて、多項式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。（思①）</li> </ul>
4	4 いろいろな多項式の計算 （教科書 p.17～18）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分配法則を使う多項式の計算、分数を含む多項式の計算をすることができる。（知②）</li> <li>・面積の図や1年で学習した計算の方法と関連付けて、分配法則を使う多項式の計算の方法を考察し表現することができる。（思①）</li> </ul>
5 6	5 単項式の乗法と除法 （教科書 p.19～21）	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単項式どうしの乗法と除法の計算をすることができる。（知②）</li> <li>・面積の図や1年で学習した計算の方法と関連付けて、単項式どうしの乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。（思①）</li> </ul>
7	6 式の値 （教科書 p.22）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式を簡単にしてから式の値を求めることができる。（知②）</li> <li>・多項式の文字に数を代入して式の値を求めるとき、より簡単な方法で求められないか考えたり、解決の過程を振り返って改善したりしようとしている。（態②③）</li> </ul>
8	基本の問題 （教科書 p.23）	1	知①：問題 1 知②：問題 2～6
	2節 文字式の活用		
9	1 文字を使った説明① （教科書 p.24～25）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続する3つの整数の和について成り立つ性質を見だし、文字を使って説明することができる。（知③～⑤）</li> <li>・文字を使った説明を振り返って新たな性質を見だしたり、問題の条件を変えて新たな問題をつくり考察しようとしていたりしている。（態③）</li> </ul>
10	2 文字を使った説明② （教科書 p.26～27）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶数と奇数の和、2けたの自然数などについて成り立つ性質を見だし、文字を使って説明することができる。（知③～⑤）</li> <li>・偶数と奇数の和、2けたの自然数などについて成り立つ性質を見だし、文字を使って説明することを通して、文字式を具体的な場面で活用することができる。（思②）</li> </ul>
11	3 等式の変形 （教科書 p.28～29）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等式の性質などを用いて、目的に合うように等式を変形することができる。（知⑤）</li> </ul>

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
12	4 スタート位置を決めよう (教科書 p.30～31)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なことがらを数学の問題にして，文字を使って解決することを通して，文字式を具体的な場面で活用することができる。(思②)</li> <li>・学習を振り返って，わかったことや疑問，問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して，学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。(態①～③)</li> </ul>
13	基本の問題 (教科書 p.32)	1	知③④：問題 1 思②：問題 1 知⑤：問題 1， 2
	章末		
14 15	1 章の問題 (教科書 p.33)	2	知①：問題 1， 2 知②：問題 3， 4 知③：問題 5 知⑤：問題 6

# 2年2章 連立方程式

## 1 単元の目標

- (1) 連立2元1次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。
- (3) 連立2元1次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ②連立2元1次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ③簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。 ④事象の中の数量やその関係に着目し、連立2元1次方程式をつくることができる。	①1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②連立2元1次方程式を具体的な場面で活用することができる。	①連立2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ②連立2元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

## 3 指導と評価の計画 (13 時間)

時間	節/小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1 節 連立方程式		
1	1 連立方程式とその解 (教科書 p.36~39)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2元1次方程式とその解の意味、連立2元1次方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入してそれぞれの方程式の解を求めることができる。(知①②)</li> <li>・章の扉の課題を考えることを通して、連立2元1次方程式の必要性和意味及び2元1次方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。(態①)</li> </ul>
2	2 連立方程式の解き方 (教科書 p.40~41)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。(知③)</li> <li>・1元1次方程式と関連付けて、一方の文字を消去して連立方程式を解く方法を考察し表現することができる。(思①)</li> </ul>

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
3	3 加減法 (教科書 p.42～43)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連立2元1次方程式を、加減法で解くことができる。(知③)</li> <li>・1元1次方程式と関連付けて、加減法で連立方程式を解く方法を考察し表現することができる。(思①)</li> </ul>
4	4 代入法 (教科書 p.44～45)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連立2元1次方程式を、代入法で解くことができる。(知③)</li> <li>・連立2元1次方程式の解き方について振り返り、自分の解き方を改善しようとしている。(態①～③)</li> </ul>
5 6	5 いろいろな連立方程式 (教科書 p.46～47)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かっこがある連立方程式、係数に小数や分数を含む連立方程式、<math>A=B=C</math>の形の方程式の解き方を考察し表現することができる。(思①)</li> </ul>
7	基本の問題 (教科書 p.48)	1	知①②：問題1 知③：問題2～4
	2節 連立方程式の活用		
8	1 連立方程式の活用 (教科書 p.50～51)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面の中の数量やその関係に着目し、連立2元1次方程式をつくることができる。(知④)</li> </ul>
9	2 速さの問題 (教科書 p.52～53)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速さに関する問題の中の数量やその関係に着目し、連立2元1次方程式をつくることができる。(知④)</li> <li>・具体的な場面で、どの数量を <math>x</math>, <math>y</math> とすれば連立2元1次方程式をつくることができるかを考察し表現することができる。(思②)</li> </ul>
10	3 割合の問題 (教科書 p.54～55)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合に関する問題の中の数量やその関係に着目し、連立2元1次方程式をつくることができる。(知④)</li> </ul>
11	基本の問題 (教科書 p.56)	1	知④：問題1 思②：問題2～4
	章末		
12 13	2章の問題 (教科書 p.57)	2	知①：問題1 知②：問題2 知③：問題3, 4 知④：問題5, 6 思②：問題5, 6

# 2年3章 1次関数

## 1 単元の見目標

- (1) 1次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。
- (3) 1次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 1次関数について理解している。 ② 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③ 変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ④ 1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 ⑤ 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。	① 1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 1次関数について考えようとしている。 ② 1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

## 3 指導と評価の計画 (18時間)

時間	節/小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1節 1次関数		
1	1 1次関数 (教科書 p.60~63)	1	・ 1次関数の意味を理解している。(知①) ・ いろいろな事象で2つの変数の関係を $y=ax+b$ で表すことを通して、事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを理解している。(知②)
2	2 変化の割合 (教科書 p.64~66)	1	・ 1次関数の変化の割合について理解し、1次関数の式から変化の割合を求めることができる。(知③)

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
			<ul style="list-style-type: none"> <li>1次関数の2つの数量の関係を表す表、式の相互関係を考察することを通して、1次関数の特徴を見だし表現することができる。（思①）</li> </ul>
3	3 1次関数のグラフ （教科書 p.67～68）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1次関数の2つの数量の関係について、表の値からグラフで表すことができる。（知④）</li> <li>1次関数 <math>y=ax+b</math> の定数項 <math>b</math> の値に着目し、式とグラフを相互に関連付けて考察することを通して、1次関数のグラフの特徴を捉えることができる。（思①）</li> </ul>
4	4 1次関数のグラフの特徴 （教科書 p.69～71）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1次関数 <math>y=ax+b</math> の <math>x</math> の係数 <math>a</math> の値に着目し、式とグラフを相互に関連付けて考察することを通して、1次関数のグラフの特徴を捉えることができる。（思①）</li> <li>これまでに学んだことを基に、1次関数の表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現しようとしている。（態①）</li> </ul>
5	5 1次関数のグラフの かき方 （教科書 p.72～73）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>傾きと切片を基にして、1次関数のグラフをかくことができる。（知③④）</li> </ul>
6 7	6 1次関数の式の求め方 （教科書 p.74～76）	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の式を求める方法を考察し表現することを通して、1次関数のグラフから直線の式を求めることができる。（思①）</li> <li>与えられた条件から直線の式（1次関数の式）を求めることを通して、1点の座標と傾きから直線の式を求めたり、2点の座標から直線の式を求めたりすることができる。（知③④）</li> </ul>
8	基本の問題 （教科書 p.77）	1	知①：問題 1 思①：問題 2 知④：問題 3 知③④：問題 4
	2節 1次方程式と1次関数		
9 10	1 2元1次方程式のグラフ （教科書 p.78～80）	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>2元1次方程式のグラフを1次関数の式とみることができる。（知⑤）</li> <li><math>x</math> 軸に平行な直線や <math>y</math> 軸に平行な直線をそれぞれ式 <math>y=k</math>, <math>x=h</math> と関連付けて考察し表現することができる。（思①）</li> </ul>
11	2 連立方程式の解とグラフ （教科書 p.81～82）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>2元1次方程式のグラフをかいたり、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標を求めたりすることを通して、座標平面上の2直線の交点の座標は、連立方程式の解として求められることを理解している。（知⑤）</li> <li>連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。（知⑤）</li> </ul>

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
12	基本の問題 （教科書 p.83）	1	知⑤：問題 1～4
	3 節 1 次関数の活用		
13	1 1 次関数とみなして 考えること （教科書 p.84～85）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水を熱し始めてからの時間と水温の関係が 1 次関数といえるかどうかなどを、表やグラフなどを用いて考察することを通して、現実的な事象における 2 つの数量の関係を 1 次関数とみなして問題を解決する方法について理解している。（知②）</li> <li>・具体的な事象から取り出した 2 つの数量の関係を理想化・単純化してみることにより、その関係を 1 次関数とみなして問題を解決することができる。（思②）</li> </ul>
14	2 表，グラフ，式の活用 （教科書 p.86～87）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直角三角形の辺上の点が動いたとき，頂点と動点を結んでできる三角形の面積について考察することを通して，具体的な事象から 2 つの数量を取り出し，その関係を表，式，グラフを用いて表現することができる。（思②）</li> </ul>
15	3 身近な数量の関係を表す グラフ （教科書 p.88～89）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間と道のりの関係を表すグラフを読み取り考察することを通して，1 次関数のグラフを基にして考察し表現することができる。（思②）</li> </ul>
16	4 総費用で比べよう （教科書 p.90～91）	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品 A と商品 B の総費用について，どのような場合にどちらが安くなるかを見だし説明することを通して，現実的な事象から 2 つの数量を取り出し，1 次関数の表，式，グラフを基にして考察し表現することができる。（思②）</li> <li>・学習を振り返って，わかったことや疑問，問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して，学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしようとしている。（態①～③）</li> </ul>
	章末		
17 18	3 章の問題 （教科書 p.93）	2	思①：問題 1 知③④：問題 2，3 知②：問題 4



# 2年4章 図形の性質と合同

## 1 単元の目標

- (1) 基本的な平面図形の性質や図形の合同及び数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができる。
- (3) 基本的な平面図形の性質や図形の合同及び数学的な推論について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平行線や角の性質を理解している。 ②多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 ③平面図形の合同の意味及び合同な図形の性質を理解している。 ④ $=$ や $\equiv$ などの記号を用いて図形の関係を表したり読み取ったりすることができる。 ⑤三角形の合同条件について理解している。 ⑥仮定と結論の意味を理解している。 ⑦証明の必要性と意味及びその方法について理解している。	①基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。 ②三角形の合同条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ③証明を読んで新たな性質を見いだし表現することができる。	①平面図形の性質のよさや証明の必要性と意味及びその方法を考えようとしている。 ②図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

### 3 指導と評価の計画 (17 時間)

時間	節／小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1 節 角と平行線		
1	1 直線と角 (教科書 p.96～99)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対頂角の性質，同位角と錯角の意味を理解している。(知①)</li> <li>・「いつも成り立つこと」について筋道立てて説明することの必要性和意味及びその方法を考え，ノートにわかったことや疑問などを記述することを通して，その後の学習の見通しについて考えようとしている。(態①)</li> </ul>
2	2 平行線の性質 (教科書 p.100～101)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行線の性質を理解している。(知①)</li> </ul>
3	3 平行線になる条件 (教科書 p.102～103)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行線になる条件を理解している。(知①)</li> </ul>
4 5	4 三角形の角 (教科書 p.104～106)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内角と外角の意味，三角形の内角と外角の性質，鋭角と鈍角の意味及び内角の大きさによる三角形の分類について理解している。(知①)</li> <li>・平行線の性質を基に三角形の内角と外角の性質について確かめ説明できるとともに，その性質を使って角の大きさを求める方法について考察し表現することができる。(思①)</li> </ul>
6	5 多角形の内角の和を 求めよう (教科書 p.107～109)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの三角形に分割することによって多角形の内角の和を求められること及び <math>n</math> 角形の内角の和を <math>n</math> を用いた式で一般的に表せることを理解している。(知②)</li> <li>・ <math>n</math> 角形の内角の和を求める問題について，その解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。(態③)</li> </ul>
7	6 多角形の外角の和 (教科書 p.110～111)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多角形の内角の和を基に，多角形の外角の和が <math>360^\circ</math> であることを見だし説明することができる。(思①)</li> </ul>
8	基本の問題 (教科書 p.112)	1	知①：問題 1～6

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
	2節 三角形の合同と証明		
9	1 合同な図形 (教科書 p.113～114)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形の合同の意味及び合同な図形の性質を理解している。(知③)</li> <li>=や≡などの記号を用いて図形の関係を表したり読み取ったりすることができる。(知④)</li> </ul>
10	2 三角形の合同条件 (教科書 p.115～117)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の合同条件について理解している。(知⑤)</li> <li>合同な三角形の組を選んで、その合同条件を答えることができる。(知⑤)</li> </ul>
11	3 仮定、結論と証明 (教科書 p.118～121)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定と結論の意味、証明の必要性和意味について理解している。(知⑥⑦)</li> <li>平面図形の性質のよさや証明の必要性和意味及びその方法を考え、ノートにわかったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習の見通しについて考えようとしている。(態①)</li> </ul>
12	4 証明のしくみとかき方 (教科書 p.122～123)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>証明のしくみ及び基本的な証明のかき方について理解している。(知⑦)</li> <li>証明を読んで新たな性質を見だし表現することができる。(思③)</li> </ul>
13	5 証明の方針 (教科書 p.124～125)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>証明をするときの方針の立て方について理解している。(知⑦)</li> </ul>
14	6 三角形の合同条件を使う証明 (教科書 p.126～127)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的なことがらから証明すべき命題を見だし、その命題が成り立つことを証明しようとしている。(態②)</li> <li>三角形の合同条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめ表現することができる。(思②)</li> </ul>
15	基本の問題 (教科書 p.128)	1	知④⑤：問題 1 知⑥：問題 2 思②：問題 3
	章末		
16 17	4章の問題 (教科書 p.129)	2	知①：問題 1～3 知⑥：問題 4 思②：問題 4

# 2年5章 三角形と四角形

## 1 単元の目標

- (1) 三角形や四角形の性質及び数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができる。
- (3) 図形の合同について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定義、定理、逆、反例の意味を理解している。 ②二等辺三角形の性質や二等辺三角形になる条件、直角三角形の合同条件について理解している。 ③平行四辺形の性質や平行四辺形になる条件について理解している。 ④正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。	①三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ②証明を読んで新たな性質を見だし表現することができる。 ③命題が正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。 ④三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。	①証明の必要性と意味及びその方法を考えようとしている。 ②三角形や四角形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③三角形や四角形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

## 3 指導と評価の計画 (18 時間)

時間	節/小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1 節 三角形		
1	1 二等辺三角形の性質① (教科書 p.132~135)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定義、定理などの用語の意味、二等辺三角形の定義を理解している。(知①②)</li> <li>・二等辺三角形の底角の定理を使って二等辺三角形の内角の大きさを求めることができる。(知②)</li> <li>・証明の必要性と意味及びその方法を考え、ノートにわかったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習の見通しについて考えようとしている。(態①)</li> </ul>

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
2	2 二等辺三角形の性質② (教科書 p.136～137)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形の頂角の二等分線の定理を証明したり，二等辺三角形の性質を具体的な場面で活用したりすることができる。(思①②④)</li> </ul>
3	3 2つの角が等しい三角形 (教科書 p.138～139)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形になる条件を理解している。(知②)</li> <li>二等辺三角形になる条件を具体的な場面で活用することができる。(思④)</li> </ul>
4	4 逆 (教科書 p.140～141)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>逆，反例の意味や，ある命題が正しくてもその逆は正しいとは限らないことを理解している。(知①)</li> <li>命題の逆を答えることができる。(知①)</li> <li>命題が正しくないことを証明するために，反例をあげることができる。(思③)</li> </ul>
5 6	5 直角三角形の合同 (教科書 p.142～144)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>直角三角形の合同条件を理解している。(知②)</li> <li>合同な直角三角形の組を選んで，その合同条件を答えることができる。(知②)</li> <li>直角三角形の合同条件を具体的な場面で活用することができる。(思④)</li> </ul>
7	基本の問題 (教科書 p.145)	1	知②：問題 1 思④：問題 2， 4 知①：問題 3
	2節 平行四辺形		
8	1 平行四辺形の性質 (教科書 p.146～147)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形の定義を理解している。(知①③)</li> <li>平行四辺形の性質を利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。(知①③)</li> <li>平行四辺形の性質を証明することができる。(思①)</li> </ul>
9 10	2 平行四辺形になる条件 (教科書 p.148～150)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形の性質の逆などを証明することを通して，平行四辺形になるための条件を見いだしたり，平行四辺形になる条件を証明したりすることができる。(思①②)</li> </ul>
11 12	3 平行四辺形になる条件の活用 (教科書 p.151～152)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形になる条件を具体的な場面で活用することができる。(思④)</li> <li>平行四辺形になる条件を具体的な場面で活用しようとしたり，問題解決の過程を振り返って評価・改善したりしようとしている。(態②③)</li> </ul>
13 14	4 特別な平行四辺形 (教科書 p.153～155)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>長方形やひし形，正方形の定義を基にし，それらが平行四辺形であることを整理することができる。(知④)</li> </ul>

時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
			・長方形やひし形，正方形の対角線の性質を証明したり，正方形，ひし形，長方形，平行四辺形の関係を論理的に考察し説明したりすることができる。（思①④）
15	5 平行線と面積 （教科書 p.156～157）	1	・平行線の性質を使って，多角形の面積を変えずに形を変える方法について考え説明することができる。（思④）
16	基本の問題 （教科書 p.158）	1	思①：問題 1， 2 知④：問題 3 思④：問題 4
	章末		
17 18	5章の問題 （教科書 p.159）	2	知②③：問題 1 思①：問題 2， 3 思④：問題 4

# 2年6章 データの分布と確率

## 1 単元の目標

- (1) データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察し表現したりすることができる。
- (3) データの分布と確率について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ②コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、四分位数や四分位範囲を求めたり、箱ひげ図で表したりすることができる。 ③多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ④簡単な場合について確率を求めることができる。	①四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ②同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ③確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。	①四分位範囲や箱ひげ図、場合の数を基にして得られる確率のよさについて考えようとしている。 ②データの分布や不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。 ④確率を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

### 3 指導と評価の計画 (13 時間)

時間	節／小節	配当 時数	評価規準 (丸付き数字は単元の評価規準と対応)
	1 節 データの分布の比較		
1	1 四分位数と箱ひげ図 (教科書 p.162~166)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>四分位数の意味, 箱ひげ図のしくみと見方, 必要性について理解している。(知①)</li> <li>箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取ることができる。(思①)</li> </ul>
2	2 四分位数の求め方と 箱ひげ図のかき方 (教科書 p.167~169)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>四分位数の求め方と箱ひげ図のかき方について理解している。(知②)</li> </ul>
3	3 四分位範囲と箱ひげ図 (教科書 p.170~171)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>範囲と四分位範囲を対比させることで四分位範囲の必要性と意味を理解している。(知①)</li> <li>四分位範囲を求めることができる。(知②)</li> </ul>
4	4 多数のデータの分布の 比較 (教科書 p.172~173)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>四分位範囲や箱ひげ図, ヒストグラムを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り, 批判的に考察し判断することができる。(思①)</li> <li>学習を振り返って, ノートにわかったことや疑問, 問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して, 学んだことを生活や学習に生かそうとしたり, 問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。(態①~③)</li> </ul>
5	基本の問題 (教科書 p.174)	1	知①: 問題 1 知②: 問題 2 思①: 問題 3
	2 節 場合の数と確率		
6	1 確率の求め方 (教科書 p.176~177)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解している。(知③)</li> </ul>
7	2 確率の性質 (教科書 p.178~179)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率は0以上1以下の数で表されることを理解している。(知③)</li> <li>余事象の考え方をを使って確率を求めることができる。(知④)</li> </ul>
8	3 場合の数と確率① (教科書 p.180~181)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>並べ方 (順列) による確率を求めることができる。(知④)</li> <li>並べ方 (順列) による確率の求め方を考察し表現することができる。(思②)</li> </ul>
9	4 場合の数と確率② (教科書 p.182~183)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>組み合わせ方による確率を求めることができる。(知④)</li> <li>組み合わせ方による確率の求め方を考察し表現することができる。(思②)</li> </ul>



時間	節／小節	配当 時数	評価規準（丸付き数字は単元の評価規準と対応）
10	5 くじのあたりやすさを調べて説明しよう (教科書 p.184~185)	1	・くじ引きが公平であるかどうかを確率を用いて考察し、その結果を説明することを通して、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。(思③)
			・学習を振り返って、わかったことや疑問、問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。(態①②④)
11	基本の問題 (教科書 p.186)	1	知③：問題 1, 2 知④：問題 3～5 思②：問題 4, 5
	章末		
12 13	6章の問題 (教科書 p.188~189)	2	知①：問題 1 思①：問題 2 知④：問題 3, 4 思②：問題 3, 4